



## 学びには何時も「なかよく・かしこく・たくましく」

校長 小高 敏男

新年度となった4月からあっという間に時は過ぎて、6月になりました。少しの緊張や不安と進級進学  
の喜びや希望をもって迎えた令和7年度、子供たちは新たな学校生活にも慣れ、学校中に元気で明る  
い子供たちの声が響いています。

4月の保護者会において、「大泉小では、主体的に学び合う子どもの育成を目指し、関わり合いを大切  
にした教育活動を進めます。」とお話しました。教師は子供たちのために、日々よりよい授業を目指して  
研究を重ねています。

今回は、「関わり合い」について、学校教育目標の「なかよく・かしこく・たくましく」と合わせて考  
えてみました。さて、「関わり合い」は「なかよく・かしこく・たくましく」のどこに含まれる教育活動  
なのでしょう。話し合いなどの学習であれば「かしこく」ではないかと考えます。「なかよく」ないと「関  
わり合えない」と考える場合もあるでしょう。「たくましく」では・・・？ そうです。「関わり合い」  
にも「なかよく、かしこく、たくましく」の三つが必要なのです。

「なかよく・かしこく・たくましく」は、人に必要な資質や能力の「知・徳・体」を示しています。  
学校教育活動の中でこれらを具現化するには、「徳」は道德で、「体」は体育でといったイメージがあり  
ますが、それだけではありません。この「知・徳・体」は全ての教科領域で常に必要な資質や能力です。  
それは、「関わり合い」も同じです。

授業中の「関わり合い」の場面を考えると、発言や発表、グループ活動等の場面をイメージすること  
が多いと思います。発言や発表は、案外、一方的で、「合い」という双方向の関わりになっていない場合  
があります。発言者や発表者は、話す内容を準備して、みんなの前で勇気を出して発言することが多く、  
発言や発表に必要な要素は、発言内容の確かさ（かしこさ）と勇気（たくましさ）ということになりま  
す。しかし、「間違えたくない」「馬鹿にされないか」などの不安があると、発言や発表はできません。  
フォーマルな場面だから、緊張を伴い「発言したくない」という気持ちになり、双方向の意見交換の関  
わり合いにまで発展しません。「関わり合い」と言っても壁が高いのです。この場合は、学級全体がイン  
フォーマルな雰囲気になるようにするか、3人などのグルーピングを工夫して、インフォーマルな集団  
で意見交換ができるようにする必要があります。

フォーマルな場面でも「関わり合い」が成立するには、更に、集団の質の高さが必要になります。何  
より、「なかよく」が必要です。勇気を出して発言した友達に対して、「頑張ったね」「すごいぞ」と励ま  
す仲間であること、「間違えたって一生懸命に考えていることは素晴らしい」「間違いから学んでいるか  
らありがとう」などと思える仲間であることで学び合いは成立します。そんな仲間との仲の良い関係が  
学級集団の中に染み渡っていれば、双方向の「関わり合い」のある授業になるのではないのでしょうか。

「なかよく」の基盤となるのは豊かな心です。特に「やさしさ」です。発言者や発表者にも「なかよ  
く」のために「やさしさ」が必要です。聴く友達のことを考えて、「どのように話したら分かりやすいの  
か」、聴いている友達の顔を見て「自分の考えが伝わっているかな」「伝わっていないから違う説明を加  
えよう」などと、聴いている友達のことを思う「やさしさ」が必要です。つまり、話し手と聴き手の両  
方に「なかよく（やさしさ）」「かしこさ」「たくましさ」が必要なのです。

大泉小では、学習活動の全てにおいて、「なかよく・かしこく・たくましく」を育む指導の工夫をして  
まいります。学校公開の時には、そんな「なかのよさ・かしこさ・たくましさ」が子供たちの学ぶ姿か  
らみられる教育活動となるように、更に研究を推進してまいります。